

令和4年度
小・中学校教育課程編成の手引
【総則編】

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

北海道教育委員会

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

これまでにない量・質のデータを
収集・蓄積・分析・活用

ICT を活用

時間的・空間的制約を超えて
音声・画像・データ等を蓄積・送受信

個々の特性等に合った多様な方法で
児童生徒が学習を進めることができる可能性

これまでにない方法で、多様な人たちと
協働しながら学習を行うことができる可能性



個別最適な学び



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

協働的な学び



未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成

【参考資料】

・「令和の日本型学校教育」中教審答申（令和3年1月26日）



・答申参考資料（令和3年3月版）



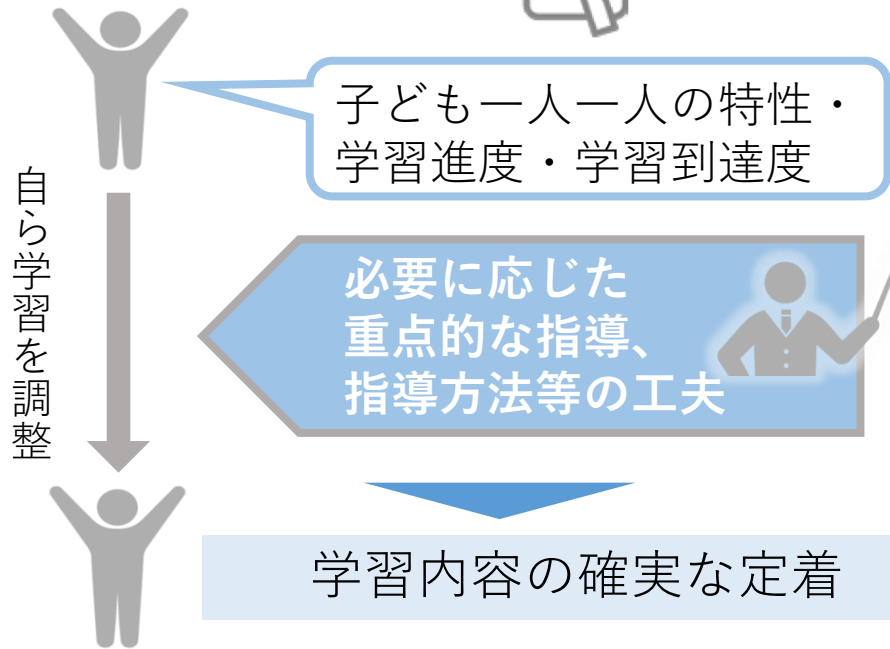
3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

1 個別最適な学び

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

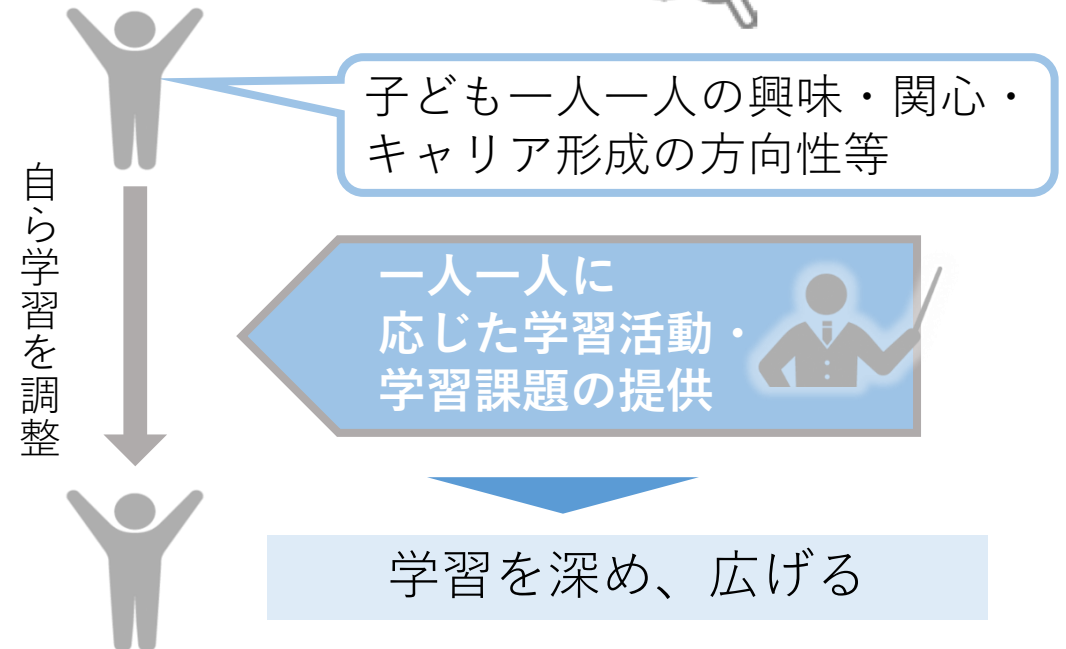
子どもが自己調整しながら学習を進めていく

指導の個別化



※ 一定の目標を全ての子どもが達成することを
目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化



※ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

1 個別最適な学び

指導の個別化



- ICT活用により得られるデータを活用し、きめ細かく学習の状況を把握・分析
- 個々の児童生徒に合った多様な方法で学習
- 学習履歴、生活・健康面の記録等、様々なデータを可視化し、学習方法等を提案するツールの活用



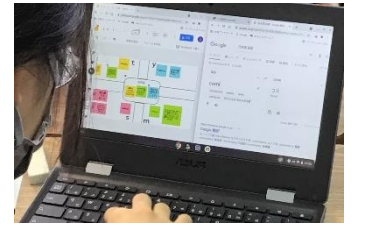
確実な資質・能力の育成

※ 児童生徒が自らの状態を把握し、自らに合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導を工夫していくことが重要

学習の個性化



- 情報の探索
- データの処理や視覚化
- レポートの作成
- 情報発信



学びの質の高まり、深い学びの実現

※ 児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるよう、教師による指導を工夫していくことが重要

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

2 協働的な学び

協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働する



一人一人の
よい点・可能性

多様な
他者と協働



クラスメイト
異学年・他校の子ども
地域の方々
専門家



- ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動
- 多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動
- 遠隔地の専門家とつないだ授業
- 他の学校・地域や海外との交流



※ 同時に、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことや、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことが重要

異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

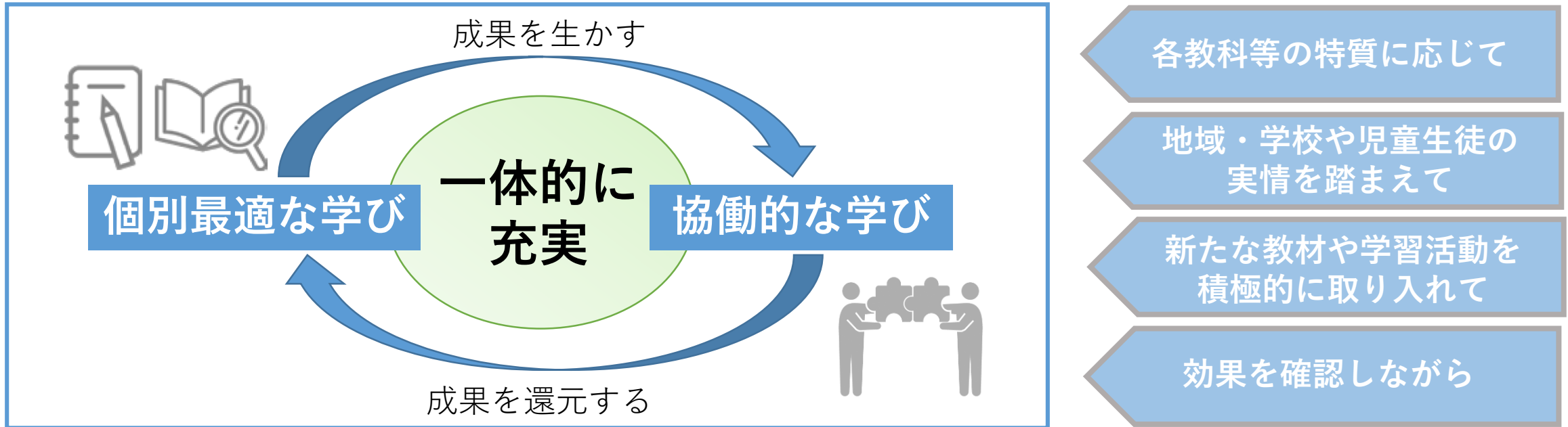


3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

実際には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多い



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

持続可能な社会の創り手